

## はじめに

「どうしてこんなに子どもたちが積極的になるのか？」

クラス会議に出合ったころ、不思議でたまりませんでした。

私は、いいクラスをつくろうと、楽しいネタを仕入れて授業をしたり、子どもたちにイベントを企画させたり、一緒に遊んだり……いろんなことをしました。クラスはそれなりにまとまり、授業もそれなりに盛り上がり、大きなトラブルもなく、子どもたちは私がほめられしようにし、叱れば行動を改善しようとしたりしました。

楽しいことも計画されて学級経営は順調に進んでいるように見えました。

しかし、「それだけ」でした。

よく見れば、自習時間には目立たないようによくルールを破る子どもがいるし、清掃をきちんとしない子どももいました。目立つ子どもと目立たない子どもが固定化し、クラスに日向と日陰があるようでした。要するに「教師の目の前」だけのいい子であり、いいクラスだったので。私はそこに君臨し、支配し、満足していたのです。その一方で、子どもたちは私の敷いたルールからはみ出さないように、「誰がいちばん正確にそのルールの上を走れるか」を競争していたようにさえ思います。

そんな「私についてこい！」式の学級経営に私自身が疑問を持っていたときに出会ったのが、「クラス会議」でした。出合ったと言っても、よくわからないので、手さぐりするような実践でした。とにかく「口を出さない」「見守る」ことだけはしっかりやりました。

するとどうでしょう。トラブルがあるとすぐに「先生」と訴えにきていた子どもたちが、「ちよつと話し合おう」と言い出すようになったり、私に内緒でサプライズパーティーを計画したりするなど、それまでは私が投げかけないと動き出さなかった子どもたちが、自分たちから動き始めたのです。それでも、自習のルールが守られなかったり、掃除ができなかったりすることはありました。でも、そのあとが違うのです。

子どもが自分たちで「自習時間に全員でちゃんと課題をするには？」「清掃をみんなで真剣にやるには？」などの議題を出し、解決策を話し合い、見つけ出していました。

また、クラス会議では、クラスみんなにかかわることだけでなく、個人の悩みに対してクラスのみんなが相談にのることがあります。困ったことがあるとみんなが話を聞いてくれるので、クラスに居場所を見失いがちな子どもや孤立しがちな子どもも学校生活に積極的になってくるような姿が見られました。とにかく、授業への集中力は増し、クラスのまとまりは強くなります。

だからといって、いつも同じ方向を見ているわけではないのです。文学的で情緒的な表現ですが、子どもたちの「輝きが段違い」なのです。

言いたいことを言えるようになりまますから、子どもの個性は引き立ちます。だから、一見バラバラに見えることがあります。しかし、協力することのよさを学ぶので、まとまらねばならないときはガ

ツチリまともります。

もちろん、すぐにこうした姿になるわけではありません。効果を実感するまでには相応の時間がかかります。

しかし、「子どもの変容を信じて待つ」ことも、クラス会議を効果的に展開するためのリーダーシップの一つです。

私の味わった感動をみなさんにも味わっていただけたらと思います、本書を書かせていただきました。クラス会議が機能し始めると、自分で考えて行動する子どもたちの「すじしみ」を実感できると思います。

近頃、「クラス会議をやりたい」と思っているけどやり方がわからない」という声を聞くようになりました。そこで、本書では実施手続きを詳細に示しました。しかし、私が感じるクラス会議の本当の魅力は、その方法論の根底にある考え方です。自分の学級経営が変わったのは、方法論を知ったことよりも、その考え方を体現するようになったからだと思います。

クラス会議を実践しながら、「人がよりよく生きるためにはどうあるべきか」、そういったことを考えるようになりました。クラス会議の伝える価値や態度、スキルは、人生を前向きにとらえ、人と良好な関係性をつくっていくヒントが満載なのです。

実践しながら、クラス会議を支える考え方の部分にも触れていただけたらと思います。